

再評価調書（再々評価）

事業名	地域総合オアシス整備事業 泉南地区				
所在地	泉南市				
再々評価理由	再評価後5年を経過した時点で継続中				
事業概要	目的	本地区は、金熊寺川水系の主要なため池及び水路において老朽化した施設の改修を行い、洪水時における決壊や溢水などによる災害を未然に防止し、地域の安全なまちづくりを進めるとともに、修景護岸や遊歩道の整備等を行い、地域の人々に「うるおい」と「やすらぎ」を与える快適な水辺環境を創造する。			
	内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ため池改修8箇所（本田池、座頭池、真宮池、君ガ池、双子池、鬼木池、新池、道光寺池）</li> <li>・水路整備1箇所（石谷水路）</li> <li>・遊歩道整備 1式</li> <li>・親水・景観整備 1式</li> </ul>			
	事業費	全体事業費：約19.9億円（約17.7億円）うち投資済事業費：約18.7億円（約12.6億円） （内訳）用地費約 - 億円（約 - 億円） （内訳）用地費約 - 億円（約 - 億円） 工事費約19.9億円（約17.7億円） 工事費約18.7億円（約12.6億円） （ ）内の数値は再評価時点のもの			
	維持管理費	地元水利組合等が維持管理するため、事業主体の大阪府による維持管理費用は発生しない。			
	上位計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪府農林水産振興ビジョン(H14.3)</li> <li>・オアシス構想 (H3.6)</li> <li>・大阪府農空間整備基本方針(H14.7)</li> </ul>			
	関連事業				
	経過	計画時の想定	再評価時点	現時点	分析
進捗状況	事業採択年度 H 5	事業採択年度 H 5	事業採択年度 H 5	・再評価時に想定していた年度事業費が確保できず、2年延長した。	
	事業着手年度 H 5	事業着手年度 H 5	事業着手年度 H 5		
途中段階の整備効果発現状況	用地：－%	用地：－%	用地：－%	・改修済のため池改修や水路において、決壊及び溢水被害の防止が図られている。 ・親水・景観等の整備を行った施設において、快適な水辺環境を府民に提供している。	
	工事：－%	工事：71%	工事：94%		
事業進捗に関する課題					

事業目的に関する諸状況	計画時の想定	再評価時点での状況	現時点での状況	分析
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○防災機能</li> <li>・ 被害想定区域 85 ha</li> <li>・ 浸水想定戸数 324 戸</li> <li>・ 浸水想定区域内人口 972 人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○防災機能</li> <li>・ 被害想定区域 85 ha</li> <li>・ 浸水想定戸数 324 戸</li> <li>・ 浸水想定区域内人口 972 人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○防災機能</li> <li>・ 被害想定区域 85 ha</li> <li>・ 浸水想定戸数 334 戸</li> <li>・ 浸水想定区域内人口 1002 人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○被害想定区域において、新たに住宅が建設され、浸水想定戸数及び区域内人口が増加している。</li> <li>○ 事業を契機として、ため池をフィールドとした学習活動が行われている。</li> <li>○事業を契機として、府民がため池に接する機会が増加している。</li> </ul>
事業を巡る社会情勢の変化		<ul style="list-style-type: none"> <li>○近隣小学校におけるため池での学習活動の回数 (H10) 0回/年</li> <li>○ 遊歩道利用者の増加 (本田池、君ヶ池) (H10) 100人/日</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○近隣小学校におけるため池での学習活動の回数 (H15) 4回/年</li> <li>○ 遊歩道利用者の増加 (本田池、君ヶ池) (H15) 300人/日</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成17年度の事業完了に向け、引き続き地元との連携により、事業推進を図る。</li> <li>・地元の協力により、ため池をフィールドとした学習活動が行われている。</li> </ul>
地元等の協力体制		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地元は事業に協力的である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地元は事業に協力的である。</li> <li>・ 改修工事に合わせて、双子池がため池に関する出前授業や文化財調査の体験学習のフィールドとして活用されている。</li> </ul>	

		計画時の想定		再評価時点での状況	現時点での状況（変更点）	分析
			備考			
事業効果の定量的分析	費用便益分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ B / C = 3 . 6 9</li> <li>便益総額 B = 3 6 . 6 億円</li> <li>総費用 C = 9 . 9 億円</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 具体的な便益内容 災害防止効果 維持管理節減効果</li> <li>・ 受益者 受益農家</li> <li>・ 費用便益算定の根拠 「解説 土地改良の経済効果」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ B / C = 2 . 2 1</li> <li>便益総額 B = 3 4 . 8 億円</li> <li>総費用 C = 1 5 . 7 億円 (総事業費 C = 1 7 . 7 億円)</li> <li>算出根拠 「解説 土地改良の経済効果」</li> <li>便益内容 災害防止効果、維持管理節減効果、</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ B / C = 3 . 1 2</li> <li>便益総額 B = 6 1 . 9 億円</li> <li>総費用 C = 1 9 . 9 億円</li> <li>算出根拠 「解説 土地改良の経済効果」</li> <li>便益内容 災害防止効果、維持管理節減効果、 水辺環境効果</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 再評価時点までは、治水上の安全性の向上を図るため池本体改修に係る効果を対象に B / C を算出した。</li> <li>・ 現時点では、親水性の向上などため池の環境整に係る水辺環境整備効果を含めて国のマニュアルにより B / C を算出した。</li> <li>・ 被害評価額の基準値が改訂され、便益が増加したことから、費用対効果が高く評価された。</li> </ul>
	その他の指標（代替指標）					
事業効果の定性的分析	安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 洪水時における決壊及び溢水被害の未然防止により、安全な生活環境が形成される。</li> </ul>	受益者：地域住民	同左	変更点特になし	
	活力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農業水の確保とともに施設管理の省力化が図られ、地域農業の振興に寄与する。</li> </ul>	受益者：農家・府民	同左	変更点特になし	
	快適性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水と緑豊かな水辺環境の創出により、良質な生活環境が形成される。</li> </ul>	受益者：地域住民	同左	変更点特になし	
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 魚や野鳥、水生植物等生き物の生息場所が確保できる。</li> <li>・ 歴史的文化遺産であるため池が保全される。</li> </ul>	受益者：地域住民・府民	同左	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ため池や水路をフィールドとした学習活動が行われている。</li> </ul>	
自然環境等への影響と対策		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ため池や水路は、貴重な環境資源として、地域の景観を形成するとともに、人々の自然との触れ合い、生きものの生息の場等となっており、施設の立地や地域ニーズを踏まえ、環境に配慮した整備を行う。</li> </ul>		同左	変更点特になし	
その他特記すべき事項		前回再評価時の意見具申・府の対応方針の概要	(意見具申) 事業継続 (府の対応方針) 事業継続	今回評価時点の反映状況		